



消火器の安全栓を抜き、火元にホースを向け、すばやく消す（黒坂4区自治会の訓練）

救護、給食給水の各班長と状況を把握し班長に指示を出す防災長などが待機しました。

各自治会では、避難した住民を地区の防災責任者がすばやく確認。ライフラインが寸断されたという想定のもとでの訓練のため、走ったり自転車などを使って本部に報告。集められた情報は、一覧表に表示されるなど明確に整理されました。

訓練後、各班長などが集まり反省会が開かれ「年々良くなってきている」と組織結成3年目の充実を実感。それでも、自治会単位の意識の差を感じた「世帯名簿など共通なものにする必要がある」と、さらなる充実を目指すことで反省点をあげていました。

同防災委員会の福田和也会長はこれまでの訓練経験が生かされ、役割分担や連絡体制も明確にできた」と訓練を評価。また、今後の課題は「地域の防災リーダーを育成していくことが急務」と訓練を振り返りました。

### 放水・消火・救急など 各地区で地域の防災力を高める

全町一斉訓練後には、町消防団員が現地指導しながら消火栓を使った放水訓練、非常食を使った炊き出し、人工呼吸などの救急講習などが、町内各地区で積極的に行われました。

黒坂4区自治会は、黒坂保育所の

広場で消火器を使つての消火訓練が行われました。

訓練には子どもから高齢者まで約20人が参加。各自交代しながら用意された消火器を使い、実際に燃え上がる炎を消す訓練を体験しました。

参加者は、消火器の安全栓の外し方、レバーを握る力の加減、噴出する圧力など自分自身で体験しながら一連の動作を確認しました。

同自治会長の小藤忠志さんは、実際火災現場に居合わせたらパニックになり何もできない。消火器の使い方を知っていても実際に使った人はそういないと思います。訓練に参加して体験することによって身につくと思います。今回の訓練は、個人、地域のために、いい機会になったのでは」と話していました。



いざというときに備え救急訓練を行う（根雨4区自治会）